

「高校生」による
シンポジウム



高校生が語る “学校と社会”

社会と向き合うのに年齢なんて関係ない。日頃から社会に関心・興味・疑問を抱き、自分事として向き合っている3校の生徒たちが“学校と社会”について語る。子ども自ら学ぶ力を育てる教育と、これからの未来を生きる「高校生」の視点とは。

11/19

2022[sat.]

会場

九度山町ふるさとセンター
大ホール

入場無料

参加の際には事前の
申し込みが必要です

13:00~16:00

開場 12:30

話し手

自由の森学園高等学校(埼玉)

×

空間ミンドウルレ(韓国)

×

きのくに国際高等専修学校

の在校生

将来、自分たちが生きたい社会とはどのようなものでしょうか

人は失敗と考察を繰り返して知識や経験を得てきた。学びとはその過程だ。つまり、学びとは失敗の積み重ねだ。それは自分が自分として生きるために必要な学びでもある。そしてこの学びには達成感や喜びも大きい。

今回のシンポジウムでは、子ども中心の学びを教育の主体にしている3校の生徒が集まる。一人ひとりの個性と自由を尊重し、点数序列主義を否定してきた埼玉の自由の森学園高等学校。韓国の代案学校、教育出版社としてソウルの教育改革に携わってきた空間ミンドウルレ。きのくに国際高等専修学校では、生徒は「大人も子どもも一人一票」のミーティングで行事や学内のルールを決める。自己決定、個性化、体験学習を重視した授業形態とレポート、話し合い、フィールドワークなど実践的な活動から社会と自分自身について考える機会が多い。それぞれの学校が持つ特色、そして、そこでの私たちの経験を基にして、3校独自の良さを再発見していきたい。そこから、それぞれの生徒たちが学校という場からどのような「学び」を得てきたのか。また、戦争、貧困や格差、地球温暖化など多種多様な問題を抱える現代社会に対してどう向き合い、考えるのか。主体的な学びと社会の諸問題について互いに議論し、これからの社会を生きる私たち目線で理想の教育について考えたい。

社会に対して全く関心のない人も、「今の若者は」と頭を抱えている人も、高校生たちの考えを聞いてみると、おもしろい発見があるかもしれません。御家族やご友人と足を運んでください。(きのくに国際高等専修学校 生徒一同)



自由の森学園高等学校(埼玉)

自由の森学園があるのは埼玉県飯能市。都会の喧騒から少し離れた、自然豊かな街です。中学校と高等学校があり、全国から生徒が集まっています。

教師と生徒が共に授業を「つくる」ことを大切に、対話を重ねることで学びを深めています。農業や演劇など多種多様な選択授業に出会い、探求することもできます。お互いの個性を尊重し、同時に自ら社会に疑問を持ち、それを深めていく中で自分自身や社会と向きあうことができる学校です。



空間ミンドウルレ(韓国)

1999年にミンドウルレ教育出版社に併設された、生徒数約20人の小さな学びの空間です。しかし、そこに集まるのは、従来の教育ではなく特別な機会を求めて、オデッセイ・プログラムと呼ばれる単位交換制度を利用して「国内留学」してきた公立の高校生であったり、他のオルタナティブ・スクールの子など、さまざまです。カリキュラムの3割を生徒自身が設定し、また全体ミーティングでは、学習内容のみならず、さまざまな行事や学校生活が話し合われます。子どもの村とは親交も深く、毎年のように交流を深めました。



きのくに国際高等専修学校

学校法人きのくにに子どもの村学園の高等部として1992年に創立されました。国際的な視野を持ち、自分自身と私たちの社会について深く考えたい人のためにできた学校です。自己決定・個性化・体験学習の教育方針のもと、少人数の学校ですが、社会課題、国際問題、心理学をはじめ、さまざまな選択授業が用意されています。ルールや授業内容・方法を生徒が話し合いで決めたり、陶芸、農業、音楽などの体験型授業を通じて自分自身や歴史的背景・社会課題を考察していくのも大きな特徴の一つです。生徒は近畿のみならず全国から通っており、多くの子が寮生活を送っています。

お申込み・お問い合わせ

Tel.0736-33-3370

Email.kinoko@kinokuni.ac.jp



会場 九度山町ふるさとセンター 大ホール
〒648-0101 和歌山県伊都郡九度山町大字九度山1190-1

※検温・マスク着用など、感染症対策へのご協力をお願いします。

送迎バス [行き] 南海高野線 橋本駅 12:10 発
(無料) [帰り] ふるさとセンター 16:15 発

※駐車場には限りがあります。できるだけ送迎バスをご利用ください。

お電話・メール・QRコードからお申し込みください。